

“把”構文の教え方

——日本人学習者に対して——

郭 春貴・操 智

(受付 2017年5月31日)

0. 前 書 き

“把”構文についていままでも600以上の研究論文があったが¹、依然として、日本人を含め多くの外国人の中国語学習者にとって難しい用法の1つと言われる。実は、その多くの研究は“把”構文に関する理論や構造の分析などがほとんどであり、教育の現場で使えるものではない。教師は外国人に対してうまく説明できないので、外国人学習者はうまく使えないのも無理はないと思われる。

本論文は日本人学習者に絞って、実際の中国語教育の現場で“把”構文について、いろいろな方法を試して教えながら、学習者に“把”構文を翻訳させたり、作文させたりして、誤文を分析し、日本人の学習者がどのような“把”構文なら使いやすいか、使いにくいかについて分析し研究した。そして、日本人にとってわかりやすい教え方をまとめたものである。

1. “把” についての研究

1978～2016年の間に、“把”構文に関する著作は20冊以上あり、その中で直接“把”構文をタイトルとする専門書は5冊あり、論文は678篇ある²。そのほとんどは“把”構文に関する理論の研究で、外国人に対する中国語教育に関する論文は僅か88篇である³。

“把”構文に関する理論の研究論文は、いろいろな言語理論、例えば、伝統構造理論、生成文法理論、結合価言語理論、認知言語理論などを使って細かく分析してきたが、ほとんどは“把”の語意について研究したものであった。例えば、「目的語が前に移動する説」、「処置説」、「させる説」、「移動説」などである。それぞれ語意についての説明はあっても、用法についての分析は少なかった。

2. “把” 構文の教え方に関する先行研究

上述した88篇の“把”の教授法に関する論文は、1978～2000年のものは主に意味からどん

な文型を教えるか論じたものである。2000年以後、主に外国人学生の誤用と習得から分析し、“把”構文の教授法を提案した。もちろん参考になる論文も多かったが⁴、具体的に教えると、実情にあわないことも多々ある。それは、学習対象と学習時間の違いによるものだと思われる。

このような訳で、本論文は主に日本人の学習者に対する“把”構文の教え方について、論じたい。

3. 一般文法書での“把”構文についての説明

《汉语八百词》《现代汉语虚词例释》《汉语800虚词用法词典》などの虚詞用法書⁵にいろいろ“把”の意味と用法について説明があり、簡単にまとめると、以下の通りである。

3.1 文法的な意味：

3.1.1 処置を表す：ある物や人をどのように処置するかを表す。例えば、

(1) 我把那些苹果送给小王了。(私はあのリンゴを全部王君にあげた)

(2) 他把那些人赶走了。(彼はあの人達を追い出した)

3.1.2 ある結果を招くことを表す：動作によって、ある結果を生じるあるいは生じたことを表す。例えば、

(3) 你会把嗓子喊哑的。(あなたは叫んだら喉をからしてしまうよ)

(4) 他把头发染黑了。(彼は髪の毛を黒く染めた)

その結果は意外なミステイクが多いことも指摘されている⁶。例えば、

(5) 他把我的电脑弄坏了。(彼は私のパソコンを壊してしまった)

(6) 对不起，我把你的杯子打破了。(すみません、あなたのコップを割ってしまった)

3.1.3 ある人・物をどのように見なすかを表す。例えば、

(7) 王老师把他的学生都看成是自己的孩子。(王先生は学生を自分の子供と見なす)

(8) 他把日本当成自己的第二个故乡。(彼は日本を第二の故郷と見なす)

3.1.4 気にいらなことが起ったことを表す：例えば、

(9) 怎么把老李给病了？(なんで李さんを病気にさせた)

(10) 真没想到，把一个大嫂死了。(思いもよらず、一人の女性を死なせた)

このタイプの“把”構文は特殊なもので、中国南方の人も使わないので、外国人は理解するだけで十分で、使い方を覚えなくてもいいと思われる。

3.2 構造上の用法：

3.2.1 目的語：“把”構文の目的語は必ず特定あるいは既知であること。例えば、

(11) 请你把我的书还给我吧。(私の本を返してください)

(12) 你把你们的手机放在桌子上。(みんなの携帯を机に置いてください)

3.2.2 動詞：“把”構文の動詞はいろいろな制限がある。

3.2.2.1 他動詞しか使えない：自動詞（“休息”“生气”など）、動作を表さない動詞（“是”“有”など）、方向を表す動詞（“来”“去”など）は“把”構文には使えない。例えば、

(13) *我把妈妈生气了。——○妈妈生我的气了。(母さんに怒られた)

(14) *我把他的照片有了。——○我有他的照片了。(彼の写真を持つようになった)

(15) *他把公司出了。——○他下班了。(彼は退勤した)

北方方言では、3.1.4のような気にいらないことの“把”構文では、自動詞を使うこともある。それは例外と考えてよい。

3.2.2.2 動詞は単独で使えない：“把”構文に使う他動詞は単独では使えず、必ず重ね型か、或いは、“了”、或いは補語か動量詞と一緒に使わなければならない。例えば、

(16) *你把那些衣服洗。(あの服を洗ってください)

○你把那些衣服洗洗。(あの服をちょっと洗ってください)

○你把那些衣服洗干净。(あの服をきれいに洗ってください)

○你把那些衣服洗一下。(あの服をちょっと洗ってください)

○他把那些衣服洗了。(彼はあの服を洗った)

(17) *你把你的房间打扫。(あなたの部屋を掃除して)

○你把你的房间打扫打扫。(あなたの部屋をちょっと掃除して)

○你把你的房间打扫干净。(あなたの部屋をきれいに掃除して)

○你把你的房间打扫一下。(あなたの部屋をちょっと掃除して)

○他把他的房间打扫了。(彼は彼の部屋を掃除した)

3.2.3 否定詞と助動詞、副詞は動詞の前に置く：“把”構文の否定詞と助動詞、副詞は一般的に動詞の前に置く。例えば、

(18) 我没把那张照片留下来。(あの写真を残さなかった)

(19) 我不把那张照片留下来。(あの写真を残したくない)

(20) 你别把那张照片留下来。(あの写真を残さないで)

(21) 你应该把那张照片留下来。(あの写真を残すべきだ)

(22) 我已经把那张照片留下来了。(私は既にあの写真を残した)

4. 誤文からの反省

学習者の誤文には以下の 3 種類がある。

4.1 動詞の誤り：

4.1.1 処理できない動詞を使ってしまったもの。例えば、

(23) 母を怒らせた。——*我把妈妈生气了。

(24) 彼の紹介してくれた映画を見た。——*我把他介绍的电影看了。

(25) 今日は友達を送りに行った。——*今天我去把我的朋友送了。

(23) の「母を怒らせた」の「生气」は自動詞で、処理もできない動作である。「我让妈妈生气了」と言えばよい。(24) の「映画を見た」の「看」は他動詞だが、映画を見ることは単に見るだけで、その映画を処理することができないので、「把」を使えない。「我看了他给我介绍的电影」と言えばよい。(25) の「友達を送りに行った」の「去送」は処理するのではなく、動作を行うために行ったことなので、「把」を使えない。「今天我去送我的朋友了」と言えばよい。

4.1.2 動詞が単独で使われたもの。例えば、

(26) 早くこの料理を食べてしまいなさい。——*你快把这个菜吃。

(27) 彼は彼の車を売ってしまいたい。——*他想把他的车卖。

(28) 私は寝る時に、必ず窓を閉める。——*我睡觉时，一定把窗关。

3.2.2.2に述べたように、「把」構文の動詞は単独では使えない。(26) の動詞「吃」、(27) の動詞「卖」、(28) の動詞「关」はみな単独に使われているので、誤文である。(26) の「食べてしまう」は「吃」だけではなく、「吃了」あるいは「吃完」と言うべきである。(27) は「卖」だけではなく、「卖了」あるいは「卖掉」と言うべきである。(28) は「关」だけではなく、「关上」と言わなければならない。つまり、特定の目的語を処理しただけでなく、処理した結果も言わなければならない。例えば「V+了」(…してしまった)、「V+完」(…し終えた)のように結果補語か「了」をつけなければならない。

4.2 目的語の誤り：

目的語の誤りはほとんど特定でないものを使ってしまった誤文が多い。例えば、

(29) 昨日友達にはがきを出した。——*我把明信片寄给朋友了。

(30) 今日必ず部屋を掃除します。——*今天我一定把房间打扫。

(31) 彼は李君に本を三冊あげた。——*他把三本日文书送给小李了。

日本語では一々「何のはがき」、「自分の部屋」と言わなくても、特定の意味になれるが、中国語は“把”構文に使われる目的語は会話でお互いにわかるものでなければ、必ず特定にしないと使えない。(29)の“明信片”，(30)の“房间”，(31)の“三本书”という目的語はみな特定ではないので、それぞれ特定に直さなければならない。例えば，“我喜欢的明信片”“我的房间”“那三本书”なら、特定になるので、正しい文になる。

4.3 否定詞，助動詞，副詞の使い方の誤り：

“把”構文にある否定詞と助動詞，副詞の使い方も間違いが多い。例えば，

(32) 私はあのことを彼に言わない。——*我把那件事不告诉他。

(33) 彼はあれらの本を持って来なかった。——*他把那些书没带来。

(34) あの紙を彼にあげないで。——*你把那张纸别给他。

(35) 今週あのレポートを終えなければならない。——*这个星期，我把那个报告要写完。

(36) 彼は郭先生の宿題をすでにやり終えた。——*他把郭老师的作业已经做完了。

(32) (33) (34) の否定詞“不”“没”“别”は全部日本語の影響で“把”の前ではなく、動詞の前に置いてしまい、誤文になってしまった。(35)の助動詞の“要”も(36)の副詞の“已经”も同じく日本語の影響で“把”の前ではなく、動詞の前に置いてしまい、誤文になってしまった。つまり，“把＋特定目的語”は介詞構造なので、否定詞，助動詞，副詞は必ず介詞構造の前に置かなければならない。

以上のようによく見られる誤文から日本人学習者は母語の影響が大きいと考えらる。したがって、日本人学習者に対する“把”構文の教え方は彼らの母語の日本語を理解しなければならない。一方的に中国本土の文法書や研究論文だけに従うと、学習者は母語の干渉から逃れられず、本質的に用法が理解できないのではないか。

5. 日本人学習者に対する“把”構文の教え方

誤文の研究や日本語の使い方などを考えて、日本人学習者への“把”構文の教え方を提案したい。

教え方は順序が大変重要であり、しかも、一度に“把”構文の用法を全部教えたら、学習者は消化不良になり、肝心な使い方を覚えられないことが危惧される。したがって、本論文は以下の順序で説明する。

5.1 “把”構文を教える前に

“把”構文は大切で、よく使われるので、早い段階で教えた方がいいという意見もあるが、

学生に“把”構文に含まれている文法知識がなければ、教員が一生懸命説明しも理解できず、使えないのではないか。

これまでの研究と経験から言えば，“把”構文を教える前に、せめて以下の文法項目を教えるなければならない。

- ① 文中の“了”と文末の“了”：“把”構文は動作によって、ある結果をもたらすものが多いので、動作が実現したことを表す文中の“了”と動作の完了、変化を表す文末の“了”を教えるなければならない。例えば，“他把那些剩菜吃了。”（彼は残りの料理を食べた）
- ② 動詞の重ね型と動詞＋動量詞（“一下”）：“把”構文ではよく動作の処理の仕方も表すので、処理のしかたを表す動詞の重ね型と動量詞“一下”も教える必要がある。例えば，“你把那些衣服洗洗／洗一下。”（あれらの服をちょっと洗って下さい）
- ③ 結果補語：言うまでもなく，“把”構文でよく使われるのは動作の結果なので、結果補語を知らないと，“把”構文を使えない。もちろん、結果補語はいろいろがあるので、全部カバーしきれないないが、少なくとも“V＋坏”“V＋好”“V＋完”“V＋破”“V＋上”“V＋下”ぐらいは教えた方がいい。例えば，“你快把那些资料复印好。”（早くあれらの資料をコピーして下さい）
- ④ 状態補語：状態補語も動作の結果を表し，“把”構文にもよく使われるので、一応教えるなければならない。例えば，“他把他的房间收拾得干干净净的。”（彼は彼の部屋をきれいに片付けた）
- ⑤ 方向補語：“把”構文は特定の目的語を処理した後の移動を表すことが多く、方向補語も多く使われるので、方向補語も事前に教えるべきである。例えば，“他把那些资料拿去了。”（彼はあれらの資料を持って行った）

5.2 教え方のステップ1——特定の目的語

まず，“把”構文の文型「主語＋“把”＋特定の目的語＋動詞＋結果を表す語句」を黒板に大きく書いて、学習者に示す。次に“把”の下に「を」を書いて、「“把”は日本語の「を」に似ているが、特定の何かを処理する・したという時、或いは、特定の何かをしたことによって、何か結果を生ずる時に使われる」と2, 3個の例文を挙げて説明する。例えば、

(37) 你＋把＋这些钱＋收＋好。

(あなたは＋このお金＋を＋ちゃんと片づけてください。)

(38) 我＋把＋李老师的作业＋做＋完了。

(私は＋李先生の宿題＋を＋やり終えた。)

目的語が特定であることと、動詞がその目的語を処理できることを説明する。目的語の特定と不特定を説明してから、動詞がその目的語を処理できることを説明する。例(37)目的

語は「お金」だけではなく、「このお金」でなければならない。そして、処理することを説明する。「このお金を片づける」か、「このお金を人にあげる」か、「このお金を隠す」かなどの処理方法を示す。

その次に処理できないものは“把”構文を使えないことを強調して説明する。例えば、「映画を見る」「ラジオを聞く」ことは処理できないので、“把电影看”“把广播听”とは言えないことを示す。代わりに、「あの映画をうまく作った」（“把那部电影拍好了”）、「あのラジオ番組を録音した」（“把那个广播节目录下来了”）なら処理なので、“把”構文を使えるようになると説明する。

5.3 教え方のステップ2——動詞は単独で使えない

次に動詞の用法の制限について説明する。“把”構文の動詞は単独で使えないことを黒板に書いた文型で説明する。「動詞＋結果を表す語句」について、「動詞が単独で使えず、必ず処理の仕方を表す重ね型か動量詞の“一下”を使う。或いは結果をもたらす助詞の“了”，数量詞，結果補語，状態補語のいずれかと一緒に使わなければならない」と言って，3.2.2.2の例を挙げて説明することが大切である。

5.4 教え方のステップ3——否定詞，副詞，助動詞は“把”の前に置くことを強く示す

日本人学習者は母語の影響で，“把”構文の否定詞，副詞，助動詞の位置の誤りが多いので，強く説明する必要があると思われる。黒板に書かれた“把”の文型の“把”の前に赤字で否定詞，副詞，助動詞を書き，3.2.3に述べたことを説明する。

5.5 教え方のステップ4——必ず“把”構文を使うものを教える

外国語を教える時は，必ず簡単なものを先に教えてから，徐々に難しいものを教えることは言うまでもない。“把”構文は確かに複雑で難しいと思われるが，その中に，日本人にとってわかりやすいものもあるので，そこから先に教えれば，日本人は早く“把”構文の理解ができると思われる。

したがって，5.2から5.4まで，“把”構文の基本用法を説明したあと，先に以下の日本語の表現にある4つの“把”構文を教えればよいと思われる。

5.5.1 「誰かが何をどこに…する」（主語がある物がある場所に移動する）の文型

つまり，日本語の「誰かが何をどこに…する」のように特定の物・事・人を処理して，どこかに移動する場合は必ず“把”構文を使わなければならないので，それを先に教えるべきである。まず，黒板に次の文型を大きく書いて，例をあげて説明する。

主語 ＋ “把” ＋ 特定目的語 ＋ 動詞 ＋ “在” ＋ 場所（吧）／了）。

(39) 彼はあれらの古い新聞を机の下に置きました。

他把那些旧报纸放在桌子下了。

(40) 彼は自分の服を壁に掛けた。

他把自己的衣服挂在墙上了。

(41) 彼はあの中国地図を部屋の壁に貼った。

他把那张中国地图贴在房间里的墙上了。

もちろん、特定の物・事・人の存在場所を説明するだけで、処理する方法を説明しない場合は“把”を使えない。単に“那些旧报纸放在桌子下”(あの古い新聞は机の下に置いてある)、“他的衣服挂在墙上了”(彼の服は壁に掛けてある)、“中国地图贴在房间里的墙上了”(あの中国地図は部屋の壁に貼ってある)と言えば十分である。しかし、もし処理の方法を説明する必要があるならば、必ず(39)(40)(41)のように“把”を使わなければならない。

また、この文型の動詞の後には(39)(40)(41)のようによく“在”を一緒に使う。他に“回”と“到”も一緒に使える。“到”の場合は場所の後に“来／去”が必要である。例えば、

(42) 请把看完的书放回书架上。(読み終わった本を本棚に戻してください)

(43) 他把自己的电脑拿到公司去了。(彼は自分のパソコンを会社に持って行った)

5.5.2 「何を誰に…する・した」(主語がある物がある人に…する)の文型

日本語の「何を誰に…する・した」という文型はある人が特定の物・事・人を何か方法で誰々に…する・したことを表すので、中国語に訳す時にも必ず“把”構文を使わなければならない。同じく文型を書いて、例をあげながら説明をする。

主語 + “把” + 特定目的語 + 動詞 + “给” + 人 (吧)／了)。

(44) 私はあの時計を李さんにあげた。

我把那个手表送给小李了。

(45) 彼は今回の会議の資料を王さんに渡した。

他把这次会议的資料交給王先生了。

(46) お母さんは自分が編んだセーターを弟に送った。

母亲把自己织的毛衣寄给弟弟了。

この文型の動詞の後には(44)(45)(46)のようによく“给”を使う。つまり、「何を誰にしであげる」という意味が多い。“告诉”の場合は“给”を使えない。例えば、“请把这件事告诉他。”。

5.5.3 「何を何と見なす」(主語がある人・物を別の人・物と見なす)の文型

「…を…と見なす」という文型は、何か、或いは誰かを別の物・人に見なすことを表す。それを中国語に訳す時も、“把”構文を使わなければならない。同じく文型を黒板に書いて例文

をあげて説明する。

主語 + “把” + 特定目的語 + 動詞 + “成／为／作” + 人／物。

(47) 陳先生は彼の学生を自分の子供と見なす。

陈老师把他的学生看成是自己的孩子。

(48) 私は北京を自分の第2の故郷と見なす。

我把北京当作我的第二个故乡。

(49) 彼はこの石をお守りとみなす。

他把这块石头当成自己的护身符。

この文型の動詞の後に結果補語として，“成”“为”“作”がよく使われる。

5.5.4 「何を何にする」(主語がある物を別の物に作り直す)という文型

「…を…にする」という文型は「特定の物を別の物に作り直す・直したこと」を表す。この場合も必ず“把”構文を使わなければならない。同じく文型を黒板に書いて例文をあげて説明する。

主語 + “把” + 特定目的語 + 動詞 + “成” + 物。

(50) 彼はあの事件を小説に書いた。

他把那件事写成一篇小说了。

(51) 母は自分の着物をワンピースに作り直した。

我妈妈把她的和服做成一件连衣裙。

(52) 彼女はこの中国語の小説を日本語に翻訳した。

她把这本中文小说翻译成日文了。

この文型の動詞の後には、(50) (51) (52) のように、よく結果補語“成”を使う。ある動作によって、別の物になる結果を表す。

以上の4つの“把”構文は、目的語が2つで、“把”の後と動詞の後にある。それらの構文は日本語の表現に似ていて、日本人にとってはそれほど難しくないで、先に教えれば“把”構文を早く使えると思われる。

ただ、日本語と違うのは、否定詞、助動詞、副詞の位置だけで、強く指摘しなければならない。

5.6 教え方のステップ5——目的語が1つの“把”構文を教える

日本語に似ていて、必ず“把”を使う4つの構文を教えたら、次に学生がよく混乱する目的語が1つの“把”構文を教える。本論文はこれを目的語が1つの“把”構文と呼ぶ。以下その教え方について述べる。

5.6.1 「…をどのようにした」という文型

目的語が1つの“把”構文の誤りは、母語の影響か、説明不足か、或いは学生の定着不足かいろいろな原因があると思われる。したがって、教える時に、繰り返し指摘する必要がある。教え方として、まず文型を黒板に書いて例文をあげながら、もう一度3.1, 3.2の意味と用法を説明する。

主語 + “把” + 特定目的語 + 動詞 + 結果。

まず、“把”構文の重要な3点は：①目的語が特定であり、②動詞がその目的語を処理でき、③動詞の後に結果を表す語句が必要である。この3点を強く学習者に指摘する。

その後、具体的な例をあげて、説明をする。例えば、「あのコップ」という特定の物がある。それを主語が「人にあげた」、或いは「壊してしまった」、「片づけた」、「洗った」、「捨てた」などの処理方法で、何かの結果が現れる・現れた。そこで「あのコップはどうしたの」（「那个杯子怎么了」と聞かれた時に、或いは自分から人に知らせたい時に、この“把”構文を使う。例えば、

(53) 我把那个杯子收起来了。(私はあのコップを片付けた)

(54) 我把那个杯子打破了。(私はあのコップを壊した)

(55) 我把那个杯子扔了。(私はあのコップを捨てた)

(56) 我把那个杯子洗了。(私はあのコップを洗った)

以上のように特定のもののいろいろな処理方法による結果を言いたい時に、“把”構文を使う。そして、次にもう一度3.2.2.2の動詞が単独で使えないことを指摘して、例文をあげながら、動詞の後に必ず結果を表す語句（“了”，動量詞，結果補語，状態補語，方向補語など）が必要ということを教える。そのあと、また、例を挙げながら4.3の否定詞，自動詞，副詞の位置を念入りに指摘する。

5.6.2 “把”を使わない文との違い：

最後に、“把”を使う文と使わない文の違いの教え方について簡単に説明する。

目的語が1つの“把”構文が学習者にとって厄介と思われるのは、この構文を言い換えて、“把”を使わなくても意味は元の“把”構文とあまり変わらないことである。そうすると、ついつい避けて“把”を使わないようにしているうちに、結局使うべきところに使えなくなりがちである。一体、その“把”構文は“把”を使わない文とどう違うのだろうか。まず、以下の例文をあげる。

(57) 我把他的杯子打破了。(私は彼のコップを壊した)

(57a) 我打破了他的杯子。(私は彼のコップを壊した)

(58) 他把我的衣服弄湿了。(彼は私の服を濡らした)

(58a) 他弄湿了我的衣服。(彼は私の服を濡らした)

以上の(57)(57a)と、(58)(58a)の日本語の訳は全く同じなので、日本人学習者だけではなく、中国人さえもその違いが何か説明できないのではないだろうか。実際、いままで多くの“把”構文の研究には、この2つの言い方の用法についての研究もあまりない。

本論文は“把”構文の性質から、いろいろ例文を分析して、教学に役に立つように以下の説明をする。

5.6.2.1 焦点の違い：

“把”構文の焦点は処置される・された目的語の結果にあり、“把”を使わない文の焦点は動作の目的語だけである。(57)は“他的杯子怎么了？(彼のコップはどうしたの)”という前提があって、その結果を述べるために使われる。(57a)の焦点は結果ではなくて、目的語の「彼のコップ」だけである。“你打破了什么？”(何を壊したの？)をうけて、“我打破了他的杯子”という返事である。(58)も同じく、焦点は“我的衣服怎么了”(私の服はどうしたの)という前提で、その結果を述べるために使われている。(58a)の焦点は目的語の「私の服」だけで、“他弄湿了什么？”に対して、“他弄湿了我的衣服”という状況に使われている。他の例も見る。

(59) 他把他的车卖了。(彼は彼の車を売った)

(59a) 他卖了他的车。(彼は彼の車を売った)

(60) 他把我们的车撞了。(彼は私たちの車にぶつかった)

(60a) 他撞了我们的车。(彼は私たちの車にぶつかった)

(59)の焦点は“他的车怎么处理了”(彼の車はどのように処理した)という前提で、その結果を述べるために“他把他的车卖了”が使われているが、(59a)の焦点は“他卖了什么”(彼は何を売ったの)という前提で、その目的語を述べるために“他卖了他的车”が使われる。(60)(60a)も同じである。

つまり、焦点が処理された目的語の結果なら、“把”構文を使い、焦点が動作の目的語なら、“把”構文を使わない。

5.6.2.2 意外性の有無

“把”構文には意外性が含まれているものが多い。例えば、(57)“我把他的杯子打破了”はわざとではなく、アクシデントによる申し訳ない気持ちを含むが、(57a)“我打破了他的杯子”は事実を述べるだけで、アクシデントのニュアンスが含まれない。(58)(59)(60)も同じく意外性が含まれている。逆に(58a)(59a)(60a)は意外性が含まれない。したがって、以下の文は意外性が含まれているので、“把”構文を使うことが多い。

(61) 我把那个老人撞了。(私はあの老人にぶつかった)

(62) 你怎么把我的钱拿走呢？(君はなぜ私のお金を持っていったの)

(63) 乌鸦把我种的西红柿都吃光了。(カラスは私が植えたトマトを全部食べてしまった)

6. ま と め

以上，“把”構文の意味と用法から，日本人学習者に対する“把”構文の教え方を提案したが，学生のレベル，学習時間，授業の時間などを考慮していないので，これで十分とは言えない。本論文はあくまでも中級レベル（一年間週 2 回 90 分，60 回の授業を終えた者）の日本人学習者を対象としての教え方である。

“把”構文はよく習得しにくいと言われるが，我々の教学経験から言えば，日本人にとってはそれほど難しくない。特に日本語に似ている目的語が 2 つの“把”構文は日本人学習者にとってはすぐ理解でき，使えるようになるであろう。

日本人学習者にとって難しい“把”構文は主に目的語が 1 つのものだと考えられる。それは“把”を使うか使わないかという大きな問題のほかに，どんな動詞が使えるか使えないか，動詞の後にどんな結果補語を使えばいいかなども難しいからである。それは“把”構文の問題にとどまらず，結果補語の問題にもなる。したがって，日本人学習者の“把”構文がうまく使えるかどうかは動詞と結果補語がうまく使えるかどうかにかかっていると言っても過言ではない。

注

1. 中国知网（CNKI）データベースによる。<http://www.cnki.net/>。
2. 中国知网（CNKI）データベースによる。<http://www.cnki.net/>。5 冊の専門書は①王还（1994）《“把”字句中“把”的宾语》，北京语言文化大学出版社；②宋玉柱（1996）《“把”字句，“对”字句，“连”字句的比较研究》，北京语言文化大学出版社；③张旺熹（1999）《“把”字结构的语义和语用特征》，北京语言文化大学出版社；④刘培玉（2009）《现代汉语把字句的多角度探究》，华中师范大学出版社；⑤席留生（2014）《“把”字句的认知语法研究》，高等教育出版社。
3. 中国知网（CNKI）データベースによる。<http://www.cnki.net/>。
4. 吕必松 2010《“把”字短语，“把”字句和“把”字句教学》，张旺熹 2001《“把”字句的位移图示》，李英，邓小宁《“把”字句语法项目的选取与排序研究》张宝林《回避与泛化——基于“HSK 动态作文语料库”的“把”字句习得考察》，陆庆和《关于“把”字句教学系统性的几点思考》
5. 他にも王自强编著 1998《现代汉语虚词词典》上海辞书出版社，侯学超编著 1999《现代汉语虚词词典》北京大学出版社，卢福波编著 2000《对外汉语常用词语对比比例释》北京语言大学出版社，张斌编著 2006《现代汉语虚词词典》商务印书馆，朱景松编著 2007《现代汉语虚词词典》语文出版社，赵新刘若云编著 2013《实用汉语近义虚词词典》北京语言大学出版社。
6. 杉村博文『中国語文法教室』，郭春貴『誤用から学ぶ中国語』『誤用から学ぶ中国語続編 2』。

参 考 文 献

著書：

1. 吕叔湘 1999《现代汉语八百词 增订本》商务印书馆
2. 北大中文系 1955/1957 级语言班编 2010《现代汉语虚词例释》商务印书馆
3. 杨寄洲・贾永芬 2013《汉语 800 虚词用法辞典》北京语言大学出版社

4. 马真2016《现代汉语虚词研究方法论 修订本》商务印书馆
5. 卢福波2016《汉语语法点教学案例研究：多媒体课件设计运用》商务印书馆
6. 朱德熙1997《语法讲义》商务印书馆
7. 吕文华2014《对外汉语教学语法讲义》北京大学出版社
8. 杉村博文1994『中国語文法教室』大修館
9. 郭春貴2002『誤用から学ぶ中国語』白帝社
10. 郭春貴2014『誤用から学ぶ中国語 続編1 補語と副詞を中心』白帝社
11. 郭春貴2017『誤用から学ぶ中国語 続編2 助動詞，介詞，数量詞を中心』白帝社

論文：

1. 崔希亮1995〈“把”字句的若干句法语义问题〉《世界汉语教学》(3)
2. 张旺熹2001〈“把”字句的位移图示〉《语言教学与研究》第3期
3. 张旺熹1991〈“把”字结构的语义及其语用分析〉《语言教学与研究》第3期
4. 马真1985〈“把”字句补议〉陆俭明，马真著《现代汉语虚词散论》北京大学出版社
5. 吕叔湘1984〈“把”字用法的研究〉《汉语语法论文集》(增订本)商务印书馆
6. 吕必松2010〈“把”字短语，“把”字句和“把”字句教学〉《汉语学习》2010年10月
7. 沈家煊2002〈如何处置“处置式”——试论“把”字句的主观性〉《中国语文》第5期
8. 金立鑫1997〈“把”字句的句法，语义，语境特征〉《中国语文》第6期
9. 晁代金2009〈近年来对外汉语教学领域“把”字句研究述评〉《河西学院学报》25卷6期
10. 任玉华1998〈“把”字句的三个平面分析及其在对外汉语教学中的应用〉《华东师范大学学报》(哲学与社会科学版)第6期
11. 李宁，王小珊2001〈“把”字句的语用功能调查〉《汉语学习》2月第1期
12. 张宝林2010〈回避与泛化——基于“HSK动态作文语料库”的“把”字句习得考察〉《世界汉语教学》第24卷，第2期
13. 吕文华 1994“把”字句的语义类型。《汉语学习》第4期
14. 陆庆和2003〈关于“把”字句教学系统性的几点思考〉《暨南大学华文学院学报》第1期
15. 李英，邓小宇2005〈“把”字句语法项目的选取与排序研究〉《语言教学与研究》第3期
16. 郭春貴1994〈“把字句”の用法について〉《広島修大論集》第34卷2号(人文篇)

Summary

How to teach “ba” sentences to Japanese students

Kaku Haruki and Cao Zhi

This study is based on firsthand teaching experience and results from former studies about the “ba” teaching method. Most of the papers mention that “ba” sentences are quite difficult to master for all foreign learners, including Japanese learners.

In this study, We analyze the differences between Japanese expressions and “ba” sentences and suggest some teaching methods which may help Japanese students to understand and master them.

This study also analyzed difficulties with regard to verbs and complements using for Japanese master and using “ba” sentences.

摘 要

对日本学生的“把字句”教学法

郭 春贵・操 智

“把字句”一直是外国学生不容易掌握的一个语法点。至今对“把字句”的研究论文近700多篇。可是大多是本体的理论研究，针对“把字句”教学法的研究仅88篇。针对日本学生的“把字句”教学法的研究更是空白。

本文从先行研究探讨“把字句”的一些用法，进而分析日本学生“把字句”的偏误，再从实际教学中摸索如何才能更好地教导日本学生掌握“把字句”。

在我们的研究与教学经验中，我们发现日本学生对“把字句”的掌握，并不如一般所说的难若登天。只要我们了解日语里的一些类似“把字句”的表达方式，加以说明练习，日本学生基本上都很快能应用。对日本学生也难以教导“把字句”的说法其实是犯上了一路来对“把字句”的教学顺序所误导。一路来都是按中国国内一些语法书籍词典，把只有一个宾语的“把字句”先教给学生。例如“我把他的杯子打破了”。而这种只有一个宾语的“把字句”并不是“把

字句”的特权，它也可以不用“把”。如：“我打破了他的杯子”。这就造成许多学生不清楚什么时候该用“把字句”，什么时候不该用了。

在我们的研究与教学经验中，我们觉得一定要更改一向来“把字句”教学的顺序，必须先教非得用“把字句”不可的句型，即带两个宾语的“把字句”。这种带两个宾语的“把字句”又正好跟日语有对称的表达方式，学生很容易理解掌握。以下是我们建议的教学顺序与方法：

1. 先介绍“把字句”的处置意义与用法。特别指出宾语必须是特定的，动词不能单用，必须要有其他表示结果的成份。否定词、助动词、副词一般置于“把”之前。
2. 然后就直接教导类似日语「…を…に…する」的带两个宾语的4种“把字句”。
 - 2.1 「何をどこに…する」通过动作把特定宾语移至另一处。“他把那些旧报纸放在门前”
 - 2.2 「何を誰に…する」通过动作把特定宾语转给某人。“他把那些苹果送给小王了”
 - 2.3 「誰を（何を）何と見なす」把某人某事当作另一人或事。“他把那些石头当成宝贝”
 - 2.4 「何を別の物にする」把某事物做成另一事物。“他把那件事写成一篇小说了”
3. 接着再教导只有一个宾语的“把字句”。如“他把我的杯子打破了”。此类“把字句”是日本学生最常犯错的。首先得再次强调宾语要有定，动词不能单用，一定要带有其他表示结果的成份。另外，因为此类“把字句”所表达的意义，并不一定得用“把字句”。例如上述例子也可说成“他打破了我的杯子”。因此学生大多回避不使用此类“把字句”。所以必须适当地解释此类“把字句”与不使用“把字句”的不同在于重点在于处理某特定宾语后产生的结果。另外还表示一种意外性。例如“他把我的杯子打破了”跟“他把他的邻居撞了”一样都带有意外性。

我们教学实践的结果显示，实际上只要指导有方，“把字句”对日本学习者并不太难，最难的地方还是“把字句”里的动词以及动补结构的使用。